

100年育った木を

奥出雲町ルポ

面積の84パーセントが森林で覆われ、林業が主産業の一つになっている鳥根県奥出雲町。外国産材との価格競争や従事者の減少といった多くの課題を抱えており、荒れる山の克服に向けて対策が求められている。奥出雲町はもと、木炭の一大産地。農家や畜産業者が広葉樹を伐採して冬季の産業として生産していたが、石油など化石燃料の普及に伴って木炭業は衰退。当時高値で取引された針葉樹のスキヤビノキの植林に転換していった。現在では奥出雲町の森林の半分強が、人の手が加わっている人工林。人工林のうち七割以上をスキヤビノキが占める。植生が様変わりした山に迫り、



「国産材には

温かさがあり、心が和む」

木材の輸入自由化で、海外から安い木材が輸入されると、国産材の価格は低迷。同時に経済発展で人件費は高くなり、木材をきり出しせば損になるという状況に陥り、林業従事者も減少した。外国産材と価格面で争うことは難しい。対策のポイントを、仁多郡森林組合の佐伯俊之専務理事(61)は一消費者に木の良

森林豆知識 化石燃料

動植物などの死骸が、地質時代を通じて堆積物となり、長い年月の間に地圧や地熱などにより変成してできた有機物。主に石油、石炭、天然ガスなどを指す。これらの燃料は、私たちの日常生活に欠かすことのできないエネルギー資源だが、埋蔵量に限りがある枯渇性資源であり、燃やすと窒素酸化物や二酸化炭素などを発生し、地球温暖化など環境に悪影響を与えると言われている。現在は、環境への負荷が少なく非枯渇性資源である太陽光、風力、地熱などグリーンエネルギーのほか、再生可能で、分解・燃焼しても二酸化炭素を増加させない木材などの森林資源も注目を集めている。

この特集は14回シリーズで掲載します 企画・山陰中央新報社



作業現場で森林管理隊員らに指示を出す仁多郡森林組合の佐伯俊之専務理事



森林保全について打ち合わせをする仁多郡森林組合の職員ら(鳥根県奥出雲町の仁多郡森林組合)



三浦朱門 (作家)

緑に囲まれていた幼年時代

一九二九年の秋、私の二歳九ヶ月の時に東京の西の郊外、武蔵境に引っ越した。その六年前の関東大震災の影響と、東京の人口増がもたらした、開発可能な土地の残る西の郊外に、住宅地が広がった時代である。子どもの人口は昔ながらの農家の子が九割、都会からの移住者が一割程度であったらうか。移住者たちには、自然が珍しかった。私の家の前は雑木林だった。

雑木林の中に幅一メートルほどの用水路を飛びこえられるか否かが、林での遊び仲間になれる資格判定基準になっていた。移住民たちは、当時、男女交際は禁じられていたはずだが、モデルラインの男女は、ごく自然に林の中で一緒に遊んでいた。いわばここは無政府的な自然環境であった。

三浦朱門(みづか じゅもん) 1926年東京生まれ、49年東京大学文学部卒業、85年文化庁長官、2004年日本芸術家協会会長、1967年『箱根』で新潮社文学賞、82年『武蔵野インテラ』で芸術選奨を受賞、他に『雲山山園』(個性)などの著作がある。99年文化功労者に選ばれる。99年出雲国加茂2000年プロジェクト会長就任。

プロフィール

三浦朱門(みづか じゅもん) 1926年東京生まれ、49年東京大学文学部卒業、85年文化庁長官、2004年日本芸術家協会会長、1967年『箱根』で新潮社文学賞、82年『武蔵野インテラ』で芸術選奨を受賞、他に『雲山山園』(個性)などの著作がある。99年文化功労者に選ばれる。99年出雲国加茂2000年プロジェクト会長就任。

森林保全活動レポート

その④



子どもが安心して おもいっきり楽しめる 「森の遊び場」づくりが 心の豊かさづくりにつながるので願っています。

豊かな緑を子どもたちの未来へ! 森林を守る!山陰ネットワーク会議

山陰の森林に関する活動を展開しているNPO法人やボランティア団体を中心にネットワークを構築し、森林保全の輪を広げる活動を展開します。

「桜の木に実っているサクランボをちぎって食べてみよう!」「川のせせらぎが聞こえるところまで近づいてみよう!」森林インストラクターの優しい指導のもと、興味のおもむくまま、自然に触れる子ども達。ここ松江市宍道町の「ふるさと森林公園」では、気軽に参加できる「里山子ども自然塾」が開かれています。ふだんは山歩きをする経験になかなか恵まれない子ども達。でも、いったん興味をもって自然に接すると、新しい発見をした喜びを強く感じる様です。何回も参加している、いわば「もりふれ倶楽部のサポーター」も着実に増えています。

- ### 里山子ども自然塾 6、7、8月のスケジュール
- 6/24(土)9:30~12:00「木の枝を使ってネーチャークラフトを楽しもう!」
 - 7/1(土)「ジャムを作りましょう!」
 - 7/8(土)「こけ玉作り!」
 - 7/27(木)「草木染め!」
 - 8/5(土)「紙すき!」
 - 8/8(火)「木工細工でネームボードを作ろう!」
 - 8/16(水)「木の枝でアートを作ろう!」
 - 8/23(水)「竹楽器を作ろう!」

今回の森林保全活動レポートその④に登場する

NPO法人もりふれ倶楽部

「もりふれ倶楽部」は、「森とのふれあいを推進する」意味を込めて、2003年春に結成されました。森とのふれあいをテーマに、小学生対象の「里山子ども自然塾」、大人を対象とした「里山自然塾」が、それぞれ毎月数回開かれています。また、「森林ボランティアを養成するための山仕事講座」を3月に行い、現在はこの講座の卒業生が月1回、県内各地で森林ボランティア活動を行っています。地元2つの小学校区の生徒、父兄の方々も参加されていますが、もっと幅広い地域からの参加も募集しています。

里山子ども自然塾に参加ご希望は…「もりふれ倶楽部」へ
〒699-0406 松江市宍道町佐々布 3352 ふるさと森林公園学習展示館内
TEL.0852-66-3586 e-mail: morifure@coffee.ocn.ne.jp
定員: 約30名 参加費・教材費: 無料ですが、保険代100円が必要です。
申し込み: お電話でお申し込みください。

森林を守る! 山陰ネットワーク会議 参加団体のみならず (6月18日現在)

鳥取県
NPO法人 賀露 おやじの会(鳥取市)
NPO法人 サカズキネット(倉吉市)
広葉樹文化協会(鳥取市)
財団法人 南部町地域振興会(南部町)
鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(米子市)
鳥取市女性の森グループ(鳥取市)
トリネット(米子市)
日野川の源流と流域を守る会(日野町)
丸山生産森林組合(伯耆町)

島根県
出雲市林業振興協議会(出雲市)
NPO法人 緑と水の連絡会議(大田市)
NPO法人 もりふれ倶楽部(松江市)
源流の森里山づくり(邑南町)
財団法人 島根県西部山村振興財団(浜田市)
里山を育てる会(松江市)
しまねフォレスト・ネットワーク出雲(出雲市)
森の仲間(出雲市)
遊木倶楽部(益田市)

特別協力
山陰中央新報社
新日本海新聞社

※新しく参加された団体
大山横手道上ブナを育成する会(米子市)

この広告に関するお問い合わせは事務局まで

山陰合同銀行 地域振興部内
島根県松江市魚町10 690-0062
TEL.0852-55-1820

みんなで 森を守ろう!

※新しく参加された団体
薪ストーブ同好会(松江市)
松江ネイチャーゲームの会(松江市)
木質バイオマスエネルギー地産地消ネットワーク(松江市)